



平成29年度里の名水・やまがた百選に羽場地区田屋にある「中の森長命水」が選定されました。11月28日、県知事から選定書の交付を受け、保全団体である田屋共栄会を代表し、西田忠一さんが鈴木町長に報告されました。

## 里 「中の森長命水」が金山町初の選定

度から山形県が選定しています。今年度は10箇所が新たに選ばれ、金山町からは初の選定となりました。現在、合計で県内33箇所が選定されています。

「中の森長命水」は、旧羽州街道の森合峠の入り口に隣接。古くから街道を往来する人々の水飲み場として利用されてきました。現在も近所の人がお茶用に利用したり、町内外からペットボトルなどに水を汲みに訪れる方もいます。また、墓参りなどの際には、墓石への水掛けにも利用されており、これまで田屋地区住民を中心とした田屋共栄会が定期的に保全活動を行ってききました。「これからも多くの方が利用されるよう、大切にしていきたい」と西田さんは話します。

## 政 策顧問の大石利雄氏が講演会『地方行財政の課題』と題し熱弁



11月27日、金山町政策講演会が行われ、自治医科大学理事兼政策顧問の大石利雄氏が、60名の出席者の前で熱弁をふるいました。

演題は「地方行財政の課題」。「これから地方は生涯活躍のまちを目指す。金山だからやれる施策で観光客を増やし、いずれば移住につなげることができれば良い」と、特に都会に住む中高年を取り込む重要性を訴えかけていました。人々の心に訴えかける施策がキーワードとなりそうです。

## 民 生委員・児童委員が交代 (上中田・外沢地区) 栗田正一さんが新たに着任



上中田・外沢地区担当の民生委員・児童委員である栗田益彌さん(外沢・写真右)が、11月30日をもって退任されました。栗田さんには平成19年12月1日から10年間にわたり、お勤めいただきました。本当にありがとうございました。

代わりに12月1日付けで栗田正一さん(上中田・写真左)が着任されました。生活に関する困りごとや人権に関することなど、様々な面でご相談にのっていただけますので、お気軽にお声掛けください。

## 節 目を迎えた第40回金山町住宅建築コンクール 新築物件に加えてリフォーム物件も対象に



▼1-3照明や家具など細部までこだわりぬいている正野邸。ハンモックなど、5人のお子さんと楽しく過ごせるような工夫がたくさん。▼4-6蔵を住まいへと再構築した丹邸。玄関戸などは蔵のものをそのまま活用した。▼7-8審査委員が各物件に赴き、内部まで視察された▼9-10視察後に行われた審査会。片山審査委員長をはじめ、審査委員からは前向きな意見が多く出された。

第40回の節目を迎えた金山町住宅建築コンクール。今年度は12月5日に審査会が開催され、街並み景観審議会専門委員の片山和俊審査委員長を中心に、町内各団体から選出した審査委員の意見を交えながら、厳正に審査が行われました。

た住宅であるかどうかでも重要な審査基準となります。対象となった物件は新築、リフォーム1軒ずつの計2軒。新築住宅は(有)青柳工務店施工の正野賢氏邸(七日町)です。2階にリビングを配置することで、機能的で明るい空間が広がっています。そのほかにも、7人の大家族が楽しく過ごせる工夫がたくさん。林寛治審査委員は「より洋風で若者向けの金山住宅だ。これはとても良い傾向」と評価されました。こういう

った形で、若い方が金山住宅に参加すること自体評価できるとの意見で満場一致。正野邸は優良賞に輝きました。

今年初めてリフォーム物件として対象となった丹幸一氏邸(下野明)は、金山住建の施工。これは築80年の蔵を活用した住まい。「リフォームではなく、再構築物とすることに賛成。大変価値のあるものだ」と住吉洋二審査委員は所見を述べられました。杉をふんだんに使い、随所に見られるこだわりも決め手となり、優秀賞受賞とな

りました。

住宅建築コンクールは、町内の建築業者の技術向上を図ることが目的。近年では住宅建築が多様化する中で、金山住宅の建築軒数は年々減少傾向にある一方、木造建築においては金山杉を活かした在来工法が見直されつつあります。職人の伝統技術を守りながら、金山住宅を建築したいという想いに寄り添う。これからの金山の大切な景観を守るうえで、重要なことを再認識した日となりました。